

## 第8章 家庭科の取組

### I 昨年度の研究概要

研究テーマ 「生徒の思考を深めるための教材作り」

#### 成果と課題

授業で使用するワークシートの中に、生徒が深く思考し、それを表現するための課題を設けることで、資料や情報に基づいて事実等を正確に理解し、意見や主張、感想を明確に記述する力を生徒が身に付けられるように取り組んだ。

ワーク学習に関して、生徒はおおむね肯定的に受け止めていた。記入に時間を要する生徒も見られたが、記入のヒントや例を示すことにより、記入を促した。

### II 今年度の研究テーマ 「自分の考えを明確に表現する力を高める教材作り」

#### 1 実態

授業の場では、多くの生徒が受け身的であり、与えられた課題を最低限度の取組で済ませようとする傾向がある。また、どういった内容を答えればいいのか、どういった内容を記述すればいいのかという、取組に関するヒントを他者に求めようとする生徒も多く、教員からの指示を待ってから取組を開始する生徒も見られる。自分自身が考えた事や導いた解答に自信がなく、また、何をどう表現することが求められているのかが理解できていない。しかしながら、適切なヒントや誘導があれば、より深い取組へと繋げられるとも考えられる。

#### 2 研究の基本的な考え方

ア 生徒に身に付けさせたい力

自分の考えを明確に表現する力

イ 力を身に付けさせるための手立て

○授業で使用するワークシートの中に、生徒が深く思考し、それを表現するための課題である《ワーク》を設ける。

○記入が進まない生徒がいた場合には、具体的な例を示すことで記入を促す。

### Ⅲ 家庭基礎学習指導案

授業者 吉村 恭子

1 日 時 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 第 5 限

2 場 所 1 年 2 H HR 教室

3 対 象 衛生看護科 1 学年 2 H (40 名)

4 単元名 高齢期の生活

#### 5 単元について

##### (1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領家庭の「第 1 家庭基礎 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉ウ 高齢期の生活」に位置付いている。

平成 27 年 7 月 2 日付で厚生労働省が発表した平成 26 年 (2014 年) 版「国民生活基礎調査の概況」によると、総世帯数に対する三世帯世帯の割合は 6.9% であり、この 50 年近くの間 に 10 ポイント以上減少し、単独世帯や核家族世帯が増加している状況が把握できる。また、 65 歳以上の者のいる世帯は全世帯の 46.7% となっているが、その内、65 歳以上の者のみの 世帯が半数以上を占めており、65 歳以上の者を含んだ三世帯世帯は 13.2% に過ぎない。

このことから、日常生活において高齢者と接している高校生は少なく、高齢者心身の状 態や、高齢期の生活を理解することや、それを自分自身の将来の姿としてとらえることが困 難であると考えられる。

本単元は、自分自身のこととして、加齢に伴う心身の変化や特徴について理解させるとと もに、今後増加する高齢者に対して、個人や社会が果たす役割を認識させることをねらいと している。

##### (2) 生徒観

本クラスの生徒の内、祖父母と同居している生徒は 10% である。事前に行った調査によると、家 庭で高齢者の世話をしたことがあると答えた生徒 37.5% であった。また、元気で長生きしたいと答 えた生徒が 87.5% いる一方で、自分自身が高齢者になった時のイメージが持てると答えた生徒は 12.5%、年は取りたくない と答えた生徒は 67.5% であった。

このことから、実生活では高齢者との関わりが少なく、現在の自分と未来の自分を結び付けにく い状況にあると判断できる。

##### (3) 指導観

現在の自分にとっても、未来の自分にとっても、学習内容を生かすことができるように指導する ことが重要である。そのため、加齢に伴う心身の変化や特徴を理解させ、今の自分にできる準備や 対策が何かを調べさせる。その上でグループワークを行うことで、様々な意見に触れさせ、考えを 深めさせる。それにより、今の自分がどうあるかによって、未来の自分が大きく変わってくるこ とや、高齢期を健康に過ごすためには、今をどう過ごすかが重要であるということに気付かせる。

## 6 単元の目標

高齢期の生活に関心を持たせ、高齢者の心身の変化や特徴について調べたりまとめたりすることで、高齢期を健康に過ごすことの意義を考えさせるとともに、高齢者に対して果たす役割を認識させる。

## 7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について考えようとしている。	高齢者の心身の変化や特徴について、具体的に考え、まとめたり、発表したりしている。	高齢者の心身の変化や特徴について調査したり、整理したりすることができる。	高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解している。

## 8 指導と評価の計画（全3時間）

時間		評 価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1時間	高齢期の特徴を知ろう			◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の心身の変化や特徴について調査したり、整理したりすることができる。</li> <li>高齢期の特徴と生活について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>定期考査</li> <li>ワークシート</li> </ul>
1時間 本時	高齢期の特徴をふまえて自分にできる取組を考えよう		◎			<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の心身の変化や特徴について具体的に考え、まとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
1時間	高齢社会の現状を知ろう	◎				<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢社会の現状と課題について考えようとしている。</li> <li>高齢社会の現状と課題について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>定期考査</li> </ul>

## 9 本時の授業

### (1) 本時の目標

調べ学習をした内容をもとに、高齢期を健康に過ごすために必要なことについて、まとめることができる。

(2) 観点別評価規準

思考・判断・表現
高齢期を健康に過ごすために必要なことや、身近な高齢者を支援する視点から、自分にできることについて考え、まとめている。

(3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て	評価規準 【観点】
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を振り返る。</li> <li>・本時の学習の目標と学習内容を知る。</li> </ul>		
展開 42分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループになって調べ学習した内容を提示し合う。</li> <li>・今の自分にできる予防策、高齢期になってから進行を遅らせる対応、身近な高齢者を支える際にできる言葉かけについて話し合い、まとめる。</li> </ul> <p>ワークシート (No.17) 《ワーク32》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①今の自分にできる予防策</li> <li>②症状が出始め時に進行を遅らせる対応策</li> <li>③こんな高齢者にはこんな言葉かけができそう</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇それぞれの記入している内容に相違点があれば説明し合い、考えをまとめさせる。</li> <li>◇高齢期を健康に過ごすためには何が必要かを話し合い、考えさせ、まとめさせる。</li> <li>◆どのような高齢期を過ごすことが理想的かをワークシートの内容を例にとりて考えさせる。</li> <li>◇身近な高齢者を支援する視点から、自分にできることについて考えさせ、まとめさせる。</li> <li>◆翌日から行われる臨地実習をイメージさせる。</li> <li>◇発表の例を示すことにより、よりよい発表につなげる。</li> <li>◆発表内容が十分だった場合には、「糖尿病の原因になるものは何がありますか」、「どうしたら肥満を防ぐことができますか」、「なぜ無理なダイエットで骨が弱くなるのですか」など、発表内容を掘り下げる発問をする。</li> </ul>	<p>ワークシート (No.17)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期を健康に過ごすために必要なことや、身近な高齢者を支援する視点から、自分にできることについて考え、まとめている。【思・判・表】</li> </ul>

	<p>・他のグループの発表を聞き、参考になった点をまとめる。 ワークシート (No.17) 《ワーク32》</p> <p>④他のグループの発表を聞いて参考になったこと</p> <p>・本時の学習を生かし、一人暮らしで家にこもりがちになってしまう高齢者が健康的に過ごすための理想的な一日のスケジュールを考え、記入する。 ワークシート (No.17) 《ワーク33》</p>	<p>◇発表したグループに対して発表を聞いていた生徒が感想を返すことで学びの共有化を図る。</p> <p>◇必要最低限の生活行為だけでなく、人との関わりや趣味などを加えることを考えるポイントにさせる。</p>	
まとめ 5分	<p>・翌日から行われる臨地実習において取り組む課題を知る。</p> <p>・本時の内容を振り返り自己評価を記入する。</p>		

#### (4) 本時の判断基準

A (十分に満足)	<p>高齢期を健康に過ごすために必要な、予防策と対応策が文章で具体的に記入されており、身近な高齢者を支援する視点から、自分にできる言葉かけについて具体的に記入している。</p> <p>《ワーク32》：①適度な運動と適切な食事をする。 記入例 ②コレステロールが多い食事をとりすぎない。 ③血圧が高いようなので、塩分を控えた食事をしましょう。</p>
B (おおむね満足)	<p>高齢期を健康に過ごすために必要な、予防策と対応策が文章で具体的に記入されており、身近な高齢者を支援する視点から、自分にできる言葉かけについて記入している。</p> <p>《ワーク32》：①適度な運動と適切な食事をする。 記入例 ②コレステロールが多い食事をとりすぎない。 ③血圧が高いようなので、気を付けましょう。</p>
C (努力を要する)	<p>高齢期を健康に過ごすために必要な予防策と対応策の記入が不十分である。または身近な高齢者を支援する視点を持っていない内容の記述である。</p>

#### IV 研究授業後の取組

##### 1 研究協議について

授業者から	<p>調べ学習をした上で、授業に臨ませた。予想より調べてきていたが、大多数が図書やインターネットから得た情報で、実生活で得た知識ではないと思われる。</p> <p>小グループで話し合いをした後、発表をさせた。生徒は文章で表現するのは苦手だが、発表はうまくまとめられていた。</p> <p>実生活や翌日から行われる看護の臨地実習と結び付けられるように工夫したかったが、時間配分の計画が狂いかけ、修正をかけながら授業を進行したため少し焦ってしまい、発表内容の掘り下げが十分とは言えない場面もあった。</p>
指導の工夫等 協議・助言等 の内容	<p><b>【協議内容 (KJ法)】</b></p> <p>ブルーとピンクの付箋紙を利用。ブルーには良かった点、ピンクには生徒の活動状況を見てもっとこのように指導すればと思った点を観察者が記入して、貼り付ける。付箋紙のグルーピングの後、協議をした。</p> <p><b>ブルー</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事前学習がよくされていて、発表の意識が高かった。</li><li>・個人で調べ、グループ学習をし、自分のこととして効果的に理解することができていた。</li><li>・ワークシートの作り方が良く、レイアウトがわかりやすかった。</li></ul> <p><b>ピンク</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・グループごとに話し合う項目を指定したら、時間が節約できたのではないかと。</li><li>・班に一枚ホワイトボードを配り、それに記入させて、黒板に張り付けていくとよいのではないかと。</li></ul> <p><b>【助言内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・調べ学習を効果的に活用していた。生徒は調べてきたことを基によく考えていた。また、意欲的で、調べてきたことを比較して感想を述べ合っていた。これはよく調べてきたからこそである。</li><li>・授業者は例の出し方に工夫や適切な指導があった。</li><li>・グループで学習し、いろいろな意見に触れ、共有化をすることで学びの成果が表れるだろう。</li><li>・考えを深める指導がされていた。</li><li>・時間が押した場合は、授業者が見本のようなものを示せたらよかった。</li><li>・衛生看護科の生徒たちはこれから実習に出て実地で体験することになるので、看護ならではの発問がなされており、その後の授業が楽しみである。</li></ul>

今後の課題	若い生徒達は、今の自分と高齢になった未来の自分をつなげにくい。普通科の生徒は衛生看護科のような臨地実習の機会がないため、祖父母などから聞いてくるなど、実生活と結び付けて考えさせるさらなる工夫が必要となるであろう。
-------	--

## 2 今年度の研究授業を終えて

今年度は「自分の考えを明確に表現する力を高める教材作り」を研究課題として研究授業に取り組んだ。授業の場では、多くの生徒が受け身的であり、取組に関するヒントを他者に求めようとする生徒も多く、教員からの指示を待ってから取り組みを開始する生徒も見られる。そこで、これからそれぞれが進路を実現していく一助として、資料や情報に基づいて事実等を正確に理解し、意見や主張・感想を明確に記述する力を身につけさせることをねらいとして授業を構成、展開した。

研究授業では、ねらいの達成のため、生徒の興味・関心を引く授業の創造、および授業で使用するワークシートの中に、生徒が深く思考し、それを表現するための課題を設けた。また、より多くの意見や着眼点に触れさせることを目的に、グループワークを取り入れ、議論や記述、発表に取り組ませた。授業の感想からは、グループワークや議論をおおむね肯定的に受け止めていることがうかがえた。また、単元ごとに実施しているレディネステストでも、授業実施前には 45.8%だった単元の内容の認知度が 93.1%へ、47.3 ポイント上昇した。

研究授業を行い、授業観察者からは、以下のような御意見をいただいた。

- ・調べ学習を効果的に活用していた。生徒は調べてきたことを基によく考えていた。また、意欲的で、調べてきたことを比較して感想を述べ合っていた。これはよく調べてきたからこそである。
- ・授業者は例の出し方に工夫や適切な指導があった。
- ・グループで学習し、いろいろな意見に触れ、共有化をすることで学びの成果が表れるだろう。
- ・考えを深める指導がされていた。
- ・時間が押した場合は、授業者が見本のようなものを示せたらよかった。
- ・衛生看護科の生徒たちはこれから実習に出て実地で体験することになるので、看護ならではの発問がなされており、その後の授業が楽しみである。

今回の研究授業は、生徒の興味・関心を引くという点、生徒が深く思考し、それを表現するという点で成果が挙げられたと考えられる。しかし、生徒の自主性・積極性の伸長という点では、まだまだ課題があると言える。若い生徒達は、今の自分と高齢になった未来の自分をつなげにくい。普通科の生徒は、衛生看護科のような臨地実習の機会がないため、祖父母などから聞いてくるなど、実生活と結び付けて考えさせるさらなる工夫が必要となるであろう。